

特別活動ワーキンググループにおける取りまとめの概要（案）

1. 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた教科等目標の在り方

（1）現行学習指導要領の成果と課題

- 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成され、それぞれ構成の異なる集団での活動を通して、児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- 特別活動は（望ましい）集団活動を通じて行われるという特質があり、各活動及び学校行事を通じて、協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤が創られている。さらに、特別活動のもつ生徒指導の機能、ガイダンスの機能等が、それらを強固なものにすることに寄与している。
- このことは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査において、「学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあることから見て取れる。
- 特別活動における集団活動は、集団への所属感、連帯感を育み、それが学級文化、学校文化の醸成へとつながり、各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており、このような特別活動は、我が国の教育課程の特徴として、海外からも高い評価を受けている。
- 一方で、更なる充実が期待される今後の課題は、概ね以下のような点である。

①育成すべき資質・能力の視点

特別活動においては、「なすことによって学ぶ」ということが重視され、各学校で特色ある取組が進められている一方で、各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。特別活動の時間において育成する資質・能力だけでなく、特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、教育課程全体における特別活動の役割、機能も明らかにする必要がある。

②学習指導要領における内容の示し方の視点

これまで、各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず、各活動等の関係性や意義、役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られる。特に中学校・高等学校の学級活動・ホームルーム活動の内容項目が多いことが、学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話し合う活動が深まらない要因の一つとなっていると考えられる。

③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点

社会参画の意識の低さが課題となる中で、自治的能力を育むことがこれまで以上に求められている。また、キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待も大きい。このほか、防災を含む安全教育、体験活動など、社会の変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成すべき資質・能力についてさらに検討する。

(2) 課題を踏まえた教科等目標の在り方

- 本WGでは、特別活動において育成すべき資質・能力について、幼児教育や他教科等との関係性も意識しつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という3つの視点を手掛かりとしながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力や人間性等」の3つの柱に沿って別添1のとおり整理を行った。これら育成すべき資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮した特別活動の目標のイメージは、別添2のとおりである。
- これまでの特別活動の目標では、特別活動の特質を「望ましい集団活動を通して」という点においてきた。この「望ましい集団活動を通して」とは、一人一人の児童生徒が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法で集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童生徒に育てたい資質や能力を育成したりするという特別活動の方法原理を示したものであるが、「望ましい」ということが、学習のプロセスというよりは目標を示しているような印象や、あらかじめ望ましい集団があることが学習の前提となっているかのような誤解を与える可能性があるため、今後その要素を具体的に目標の中に示すこととして整理することが考えられる。
- 特別活動は、教育課程全体の中で、①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、②学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる見方・考え方を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより主体的・対話的で深い学びの実現に寄与する役割や ③教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすことが求められる。

(3) 見方・考え方について

- 特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。
- また、実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあるとすることができる。
- このような特別活動の特質を踏まえつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、「各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視

点から問題を見出し、人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること」と整理した。(別添3参照)

2. 具体的な改善事項

(1) 教育課程の構造化

①資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 特別活動の特質に鑑みれば、「決めたことの実践」が重要であることはいうまでもないが、特別活動において育成すべき資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものである。例えば、学級活動においては「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程を示している。(詳細は別添4参照)
- 集団活動の中で、多くの生徒が役割を経験することが重要である。役割を果たす中で主体的に思考・判断・表現し、自己有用感を育むとともに、役割を決める過程自体が自治的能力や、主権者として積極的に社会参画する力を育成することになる。
- また、特別活動においては、休み時間や給食の時間、放課後等を含めた学校教育全体を見渡して、教師が意図的、計画的に指導を行うことも大変重要である。

②指導内容の示し方の構造

(学級活動の内容)

- 学級活動について、内容項目ごとに育成すべき資質・能力とそのために重視する学習過程を明確にして、特に自治的能力の育成を重視し、課題の発見を含めて児童生徒主体の話合いを通じて行うことが改めて明確となるようにする。
- 総則において学級経営に関して明示する方向で検討がなされていることに対応し、学級活動の(1)を中心に学級経営との関連を図ることを示すことが必要である。
- また、小・中・高等学校を通じて育成すべき資質・能力の観点から、以下のように系統性が明確になるよう構造を整理する。
 - ・ 小学校の学級活動の内容に(3)を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理すること
 - ・ 中学校、高等学校において、与えられた課題ではなく学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話し合う活動として(1)の内容を重視する視点から、(2)(3)の内容を整理すること
- これらを踏まえ、小・中・高の学級活動・ホームルーム活動の構成は、以下のような構成に揃えることが考えられる。(別添5参照)
 - (1) 学級や学校における集団生活の創造、参画(仮)

主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成（集団決定）とそれに基づく実践を大事にする活動。日々の学級経営との関連を図る。

（2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）

主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動。関係する教科、個別の生徒指導等との関連を図る。

（3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）

主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

- 上記のように、構成の大枠は小中高の系統が明らかになるよう整理しつつ、それぞれの具体的な内容や示し方は、総則や各教科等の学習内容との関係も踏まえながら、各学校段階にふさわしいものとする必要がある。

（児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事）

- 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事においても、それぞれの活動を通して、育成すべき資質・能力を明確化する方向で目標及び内容の示し方を改める必要がある。各学校において、各活動を通じて育成する資質・能力と、その実現に必要な活動内容を十分考慮し、必要かつ適切な時間数を確保することが必要である。
- また、特に小学校・中学校については、地域により学校の規模その他の事情が様々であることに留意して、必要に応じて重点化を図ることも示す。

（2）教育内容の改善・充実

①教育内容の見直し

- 主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる。児童会・生徒会における役員選挙や総会、委員会活動や、クラブ活動の計画的な運営など、自治的な活動を実践的に学ぶ場面や、学級会・ホームルーム活動における自治的能力を育成する様々な活動について、社会科や公民科との関係も踏まえつつ、その一層の充実を図ることが求められる。
- キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものであるが、狭義の「進路指導」との混同により、中学校・高等学校においては、入学試験や就職活動があることから本来の趣旨を矮小化した取組になっていたり、職業に関する理解を目的とした活動だけに目が行きがちになったり、小学校では特別活動において進路に関する内容が存在しないため体系的に行われてこなかったりという実態がある。キャリア教育本来の役割を改めて明確にするためにも、小学校段階から特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要である。

- 防災を含む安全教育について、特別活動は、学級活動における「安全な生活態度の形成」や学校行事における避難訓練などの活動を行うことだけでなく、各教科における学びと日常生活をつなぐ重要な役割を果たす。また、特別活動で育む自立した生活を営むことや、ともに助け合う力、社会参画の力は、安全に生きていくために求められる「自助」「共助」「公助」につながっていく。安全に関して育成すべき資質・能力の議論を踏まえつつ、こうした取組の充実を図ることが求められる。
- 前回改訂で充実が図られた、食育の観点を踏まえた学校給食と食習慣の形成は引き続き重要であり、各学校の実態に応じて効果的な指導が行われることが望ましい。
- 自然の中で生活をともにする集団宿泊活動については引き続き重要である。育成したい資質・能力を明確にし、青少年教育施設の指導員等とねらいや活動について共有することが重要である。より効果的な活動とするために各教科の年間計画と関連を図って学びを深いものとしたり、「イングリッシュ・キャンプ」「通学合宿」などを行ったりするなどの工夫を行い、より長期間の活動とすることも考えられる。
- 学級・学校の中にいる児童生徒一人一人の個性を尊重し、障害の有無や国籍など様々な違いに関わらず協働していく力を育むこと、地域の高齢者や障害者、外国出身者など様々な人との交流を通じて学ぶことも重要である。
- 情報活用能力の育成という視点からは、学級活動等における問題の発見や確認などを行う際に情報を収集・整理することや、学校図書館の利用なども重要である。また、クラブ活動の中にプログラミングを体験する学習を取り入れることも考えられる。

(3) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

①主体的・対話的で深い学びの実現

- 特別活動は、児童生徒同士の話し合い活動や、児童生徒の自主的・実践的な活動をその特質としている。「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」というアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行うことは、特別活動の本質に関わるものであり、これまでも重要と考えられてきたことにつながるものである。

・「深い学び」の視点

特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、一連のプロセスの中で、見方・考え方を働かせ育成すべき資質・能力は何なのかということを確認にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが求められる。

・「対話的な学び」の視点

特別活動は多様な他者との集団活動を基本とし、これまでも「話し合い」をすべての活動の中で重視してきた。集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。また、異年齢の子供や障害のある児童生徒等多様な他者と対話しながら協働すること、地域の人との交流の中で考えを広め

たり自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通じて自然と向き合い日頃得られない気付きを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において他の児童生徒や教師等との対話を通じて考えを深めることなども重要である。

・「主体的な学び」の視点

特別活動においては、学級や学校の実際の集団生活の中から課題を見出すことに特質がある。集団生活をよりよくしていくためには何に取り組んだらよいのかということを中心に据えたり、活動を振り返り、よい点や改善点を見付け出すことによって、新たな課題の発見、設定をすることが可能となりそれが次なる動機となったりする。こうした課題の設定や振り返りといった学習のプロセスを意識して、そこで育成すべき資質・能力を明確にすることが求められる。

②教材や教育環境の充実

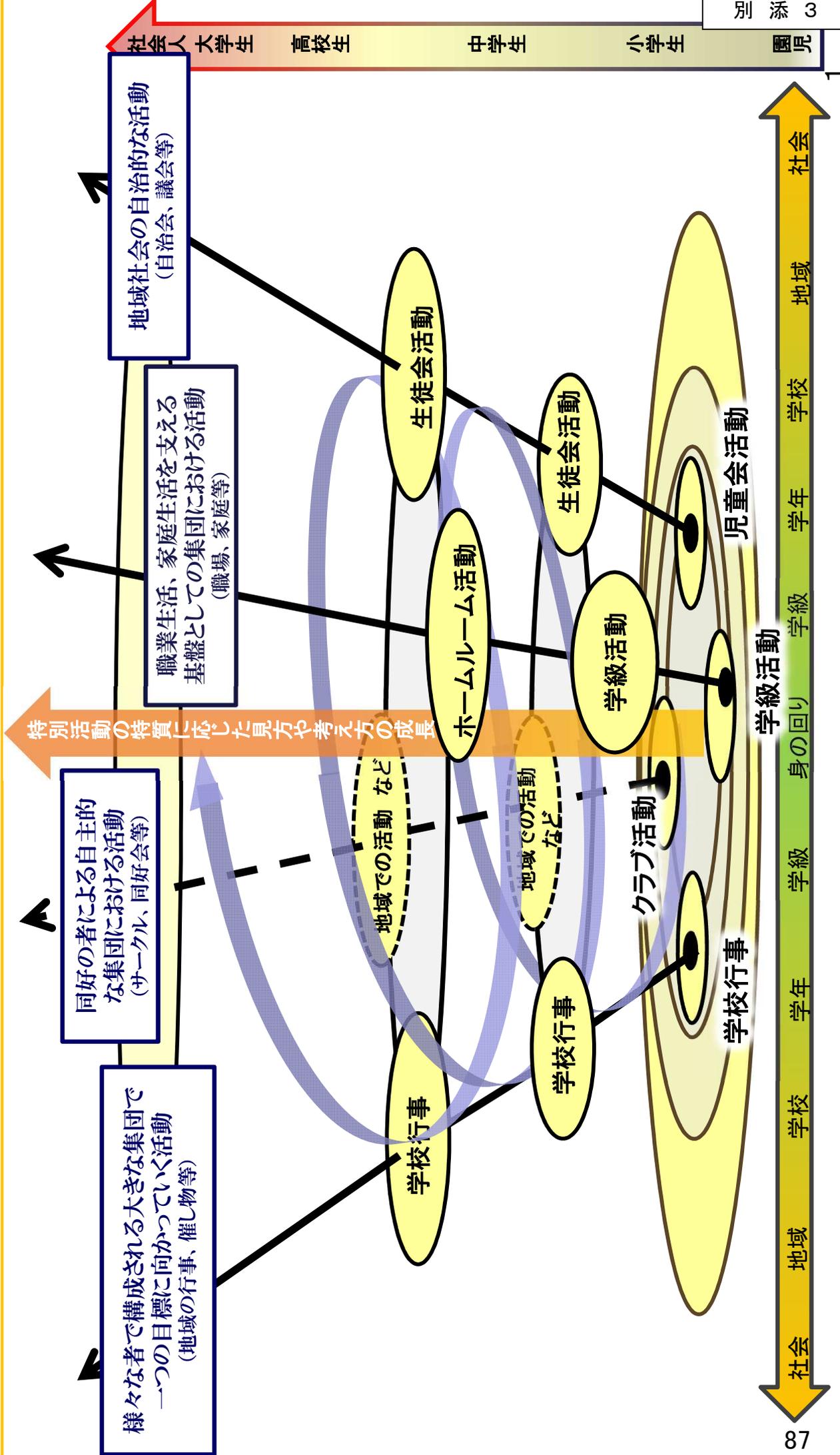
- 教育課程全体で行うキャリア教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート（仮称）」）を作成することを検討する。特別活動を中心としつつ各教科等と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために活用できるものとなることが期待される。将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討する。
- 特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校のすべての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである。教員養成段階で、本まとめ案で示したような特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指導方法等の本質をしっかりと学ぶようにすることが必要である。また、国や都道府県等による取組状況の共有などを行う研修や、研究団体等による指導方法等の研究及びその普及が強く求められる。
- 特別活動の充実を図るためには、「チームとしての学校」の視点で、教員以外の養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、司書教諭・学校司書などの専門性を生かしながら学校全体で取り組むとともに、学校外の専門家等の協力を得ることが重要である。
- 地域との連携・協働に当たり、活動を通して育てたい資質・能力を地域と共有することが必要である。子供たちが地域の行事への参加、地域の課題解決に向けて取り組むなど大きな役割を果たすことにより、資質・能力を生きて働くものとして成長させたり、学習意欲、自己肯定感を醸成させたりするとともに、地域教育力の向上、地域の活性化、学校との信頼関係構築にもつながる。コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用、教育委員会と首長部局との連携も重要である。
- また、小・中・高等学校の学校間の連携、家庭との連携や様々な家庭状況への配慮、小規模校における教育効果を高める工夫などの取組も重要である。

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○ 様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見いだし、その解決のため話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ案)

《特別活動における「見方・考え方」》

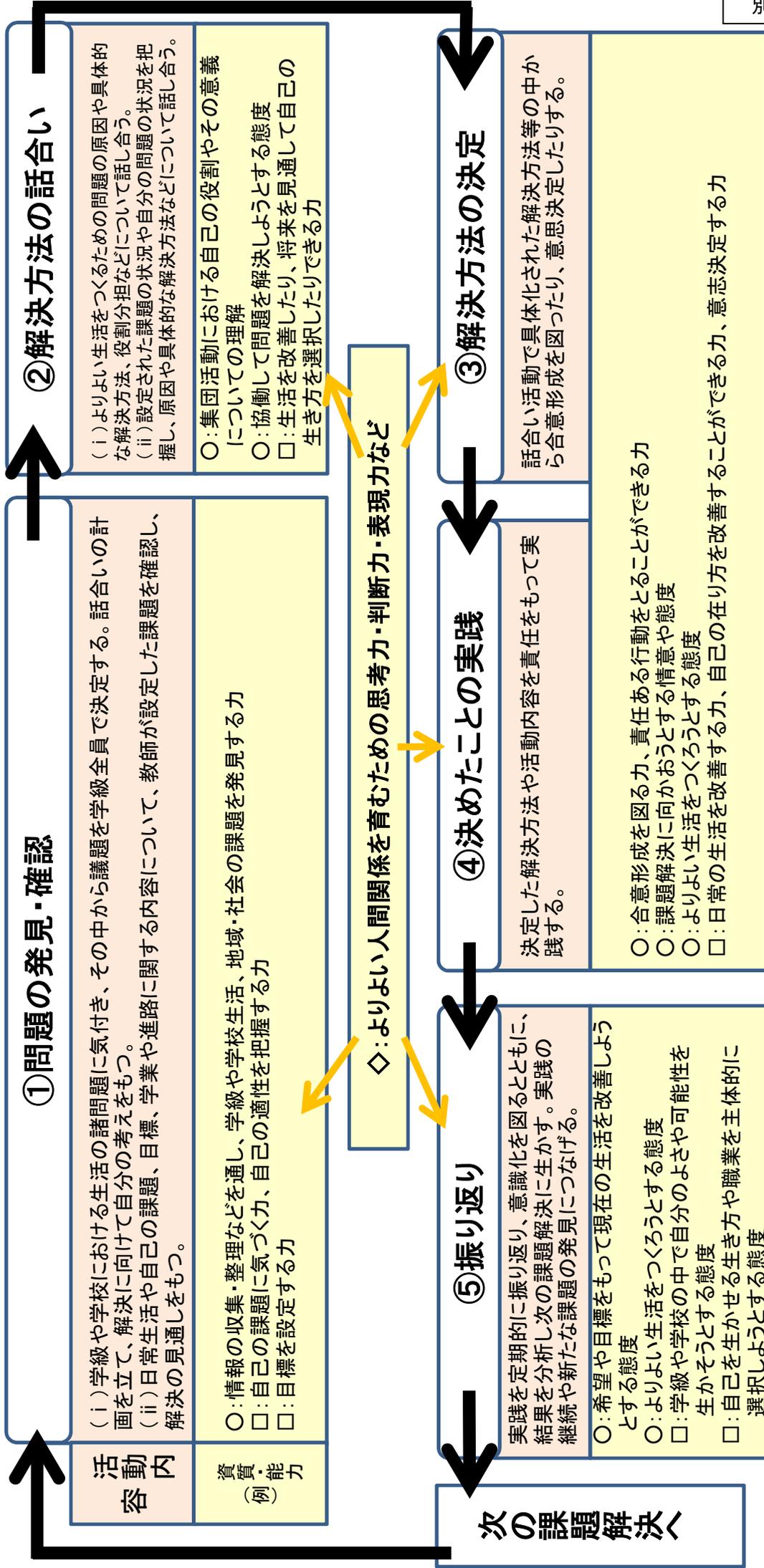
各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、**集団や社会の形成者**という視点から問題を見出し、**よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること



特別活動における各活動の意義や役割(学級(ホームルーム)活動)(案)

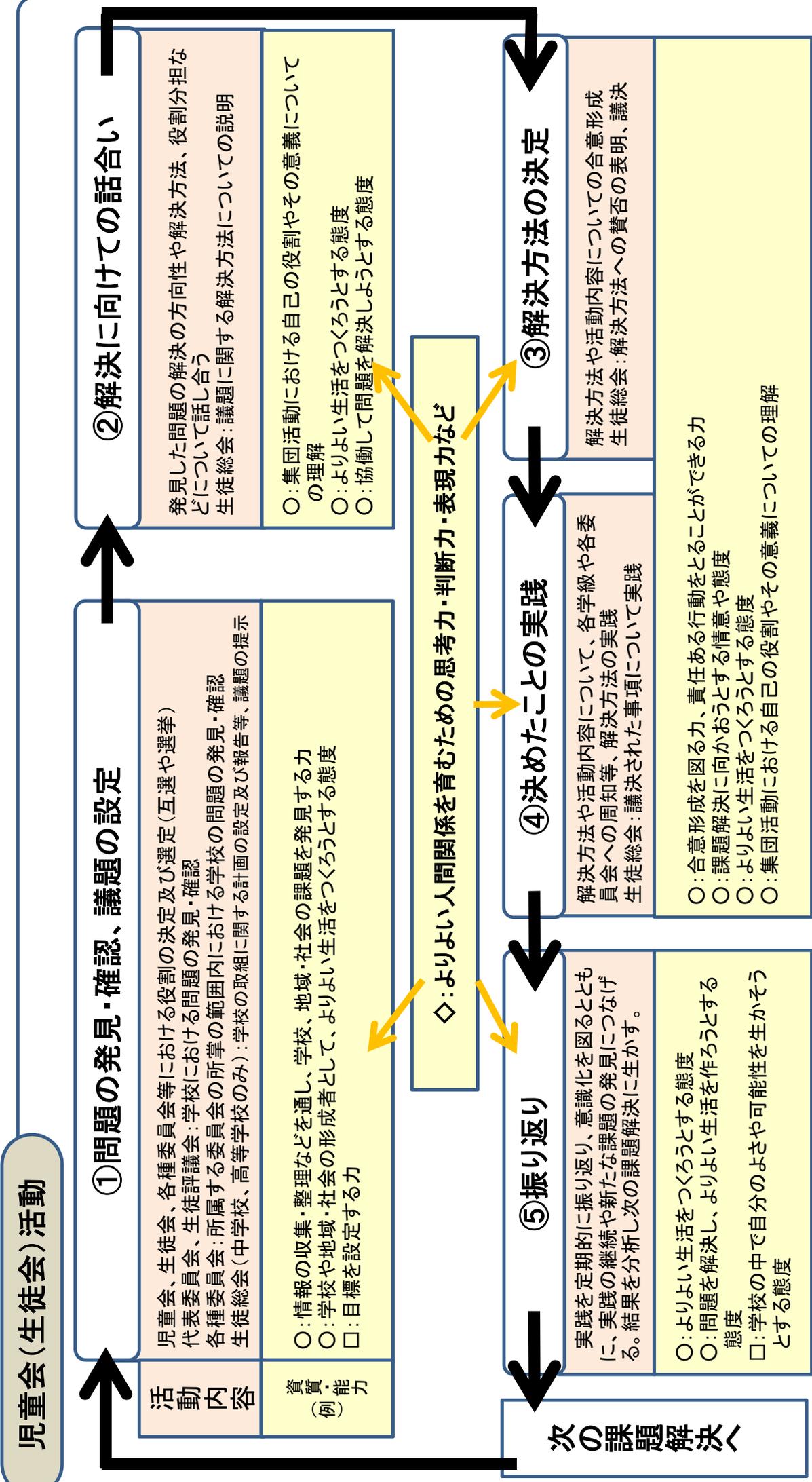
平成28年6月22日
特別活動WG
資料6 会議後修正

学級(ホームルーム)活動



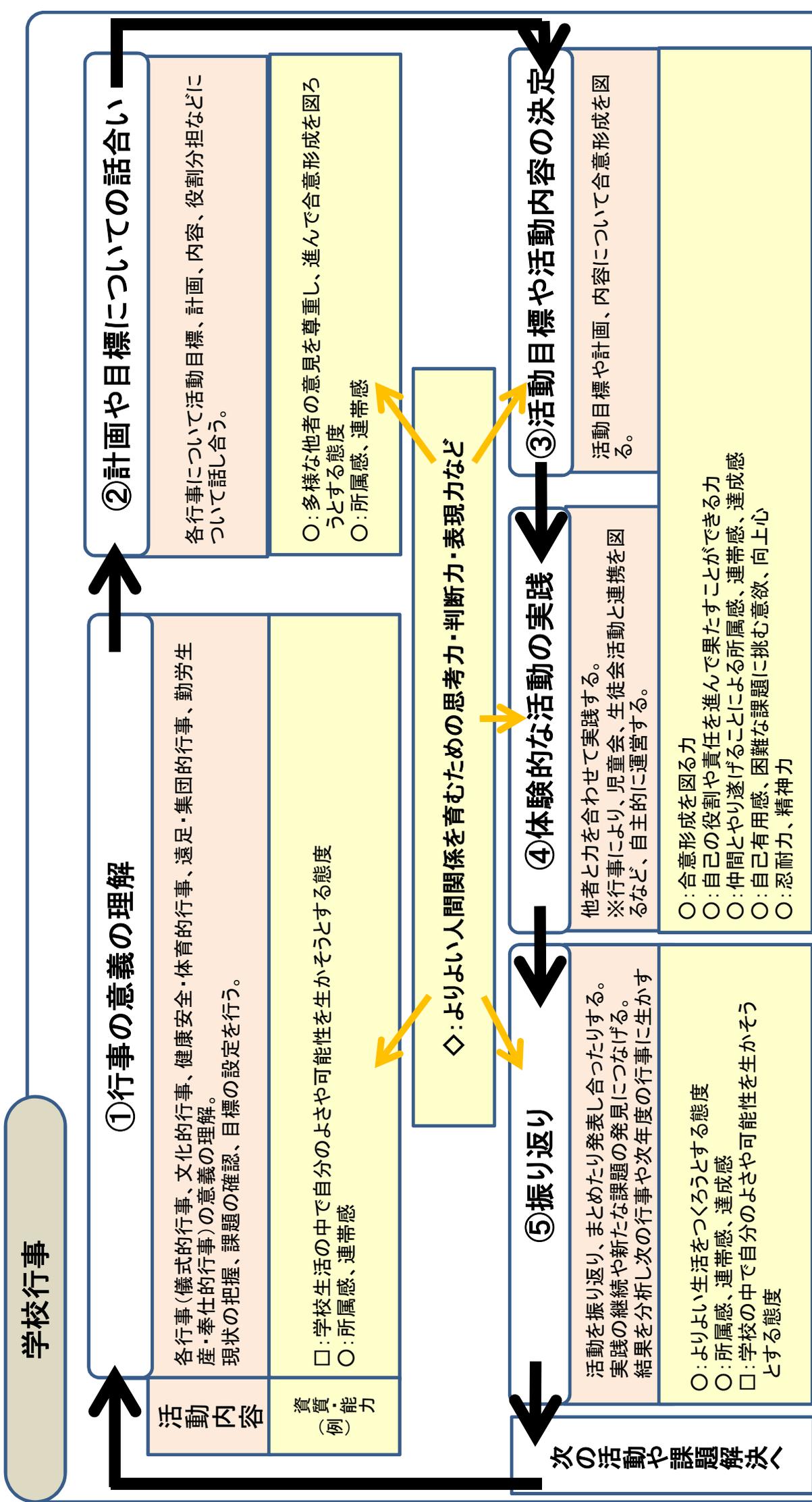
※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇: 人間関係形成、○: 社会参画、□: 自己実現
 ※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点化したり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。
 ※実践の場は、休み時間や給食の時間、放課後など、必ずしも特別活動の時間とは限らない。

特別活動における各活動の意義や役割(児童(生徒)会活動)(案)



※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇: 人間関係形成、○: 社会参画、□: 自己実現
 ※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点化したり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動における各活動の意義や役割(学校行事)(案)



※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点・・・◇: 人間関係形成、○: 社会的参画、□: 自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

小学校特別活動の内容の構成（学級活動）について（イメージ案）

平成28年6月22日
特別活動資料8

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の小学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

（1）学級や学校の生活づくり

- ◇○□ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ◇○□ ウ 学校における多様な集団の生活の向上

（2）日常生活や学習への適応及び健康安全

- ◇○□ ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- ◇○□ イ 基本的な生活習慣の形成
- ◇○□ ウ 望ましい人間関係の形成
- ◇○□ エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- ◇○□ オ 学校図書館の利用
- ◇○□ カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- ◇○□ キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点（例）

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

多様性を尊重する社会の視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

キャリア形成の視点

主体的な学びの視点

心身の健康、安全・防災の視点

食育の視点

改善のイメージ案

（1）学級や学校における集団生活の創造、参画（仮）
⇒主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、**集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動**

例) 学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや役割分担、学校における多様な集団生活の向上など集団生活の形成や運営、向上に関する内容
※日々の学級経営との関連を図る

（2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）
⇒主に個人が現在直面する生活における**適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚等を大事にする活動**

例) 希望や目標の設定、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度の形成、食育の視点を踏まえた学校給食や望ましい食習慣の形成、当番活動や働くことの意義の理解、学校図書館の利用など、一人一人の児童の学校生活や学習への適応及び健康安全に関する内容
※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

（3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）

⇒現在の（2）のうち、**中学校以降における、一人一人のキャリア形成と実現に関わる内容（3）**につなぐ部分等

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

中学校特別活動の内容の構成（学級活動）について（イメージ案）

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の中学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

- (1) 学級や学校の生活づくり
 - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 - イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上



(2) 適応と成長及び健康安全

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への対応
- ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成



(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計



総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路指導と関連する視点

改善のイメージ案

- (1) 学級や学校における集団生活の創造、参画(仮)
⇒ 主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、**集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動**

例) 学校における多様な集団生活の向上、学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※日々の学級経営との関連を図る

- (2) 一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)
⇒ 主に個人が現在直面する生活における**適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事にする活動**

例) 男女相互の理解と協力などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や、思春期の不安や悩みの解決や性的な発達への対応、食育の視点や学校給食、食習慣の形成など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

- (3) 一人一人のキャリア形成と実現(仮)
⇒ 主に**将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動**

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業観の育成を含むなど、自己のキャリア形成と実現に関する内容

* 高等学校においては、社会的移行への対応を含む

※個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る

3つの視点との関係は、主として関わる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。ここでは、指導がたつて特に意識すべきと考えられる視点を記している。

高等学校特別活動の内容の構成（ホームルーム活動）について

（ホームルーム活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の高等学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕

(1) ホームルームや学校の生活づくり

- ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 適応と成長及び健康安全

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点も相互に関わりあっている。

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

ホームルーム経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路指導と関連する視点

改善のイメージ案

(1) ホームルームや学校における集団生活の創造、参画(仮)

⇒ 主として自発的・自治的な集団生活の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動

例) 学校における多様な集団生活の向上、ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※ 日々のホームルーム経営との関連を図る

(2) 一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)

⇒ 主に個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事にする活動

例) 男女相互の理解と協力やコミュニケーション能力の育成、国際理解・国際交流などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や社会参画、青年期の不安や悩みとその解決、心身の健康と健全な生活態度、生命の尊重と安全な生活態度、規律ある習慣の確立など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※ 関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

(3) 一人一人のキャリア形成と実現(仮)

⇒ 主に将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成、社会的移行への対応など、自己のキャリア形成と実現に関する内容

※ 個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る

産業教育ワーキンググループにおける取りまとめの概要（案）

1. 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた教科目標の在り方

(1) 現行学習指導要領の成果と課題

- 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉からなる職業に関する各教科（以下「職業に関する各教科」という。）においては、各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。
- また、職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携のもと、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。あわせて、職業学科に学んだ生徒の進路が多様であることから、大学等との接続についても重要な課題となっている。

(2) 課題を踏まえた教科目標の在り方

- このような中、産業教育全体の目標の考え方については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて、三つの柱に沿って次のように整理した。

職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。

- ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
 - ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
 - ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
- これらを構成する要素のうち、例えば、「倫理観」や「合理的」等は、従来から学習指導要領において明示してきた重要な要素である。一方で、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「社会貢献」、「協働的に取り組む」は、社会や産業における新たな課題の解決に向けて多くの人と協力して挑戦し粘り強く学び続けることや、広い視野でより良い社会の構築に取り組むことが重要であることから明示した。

(3) 見方・考え方について

- また、産業教育の特質に応じ育まれる見方・考え方については、教科ならではの視点や思考の枠組みであり、三つの柱で整理していく資質・能力を育むため、各教科に関連する職業を踏まえて検討を行った。
その結果、職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えることなどに整理した。
- 各教科の目標や見方・考え方については、上記の産業教育全体の目標の考え方や見方・考え方を踏まえ、各産業の特質に応じて整理することが必要である。

2. 具体的な改善事項

(1) 教育課程の構造化

① 資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 上記の三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、産業教育において従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。
- このような学習については、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、「計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果をもとに計画を検証する「振り返り」、といった過程に整理した。この過程においては、例えば、「課題の発見」では、学びに向かう力や人間性として、より良い社会の構築に向け課題を発見しようとする態度が、「計画の実施」では、思考力・判断力・表現力として、専門的な知識・技術を活用する力が育まれることが想定される。
- ここで整理した過程はあくまでも例示であり、各過程を行き来して学習活動が行われるものであることに留意する必要があるが、これらの過程において、先述した三つの柱に基づき整理した資質・能力の育成を図ることができる。

② 科目構成の構造

- 今回の改訂においては、産業教育で育成する資質・能力を踏まえ、各教科で指導すべき共通の内容を整理し、これを各教科共通の基礎的・基本的な内容として各教科の原則履修科目などの基礎的科目において扱うことが求められる。
- また、産業教育に関する各教科の科目構成については、基礎的科目において各教科に関する基礎的・基本的な内容を理解させ、それを基盤として専門的な学習につなげ、更に「課題研究」等で専門的な知識・技術の深化、総合化を図るという現行の考え方を継続し、改訂を進めることが必要である。

(2) 教育内容の改善・充実

- 今回の改訂においては、上記のような資質・能力の育成を前提に、社会や産業の変化の状況等や学校における指導の実情を踏まえて、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応についての視点から改善を図ることが求められる。また、こうした社会や産業の変化の状況等に対応する観点からも、経営等に関する指導についてはより重要となっており、例えば、農林水産業などの各産業においては、経営感覚に優れた次世代の人材の育成に向けた指導の充実などが求められる。

- 資質・能力の育成に向けた職業に関する各教科の教育内容については、次の方向で改善・充実を図る。
 - (農業)
 - 安定的な食料生産の必要性や農業のグローバル化への対応など農業を取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・現在の「農業経営、食品産業分野」と「バイオテクノロジー分野」を再構造化し、バイオテクノロジーを含む「農業生産や農業経営の分野」と「食品製造や食品流通の分野」に整理
 - ・農業の各分野において、持続可能で多様な環境に対応した学習の充実
 - ・農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るための学習の充実
 - ・安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実
 - ・農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実
 - ・農業の持つ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実
 - (工業)
 - 安全・安心な社会の構築、職業人としての倫理観、環境保全やエネルギーの有効な活用、産業のグローバル競争の激化、情報技術の技術革新の開発が加速することなどを踏まえ、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・工業の各分野で横断的に履修する科目について、知識や技術及び技能の活用に関する学習の充実
 - ・技術の高度化や情報技術の発展等への対応に関する学習の充実
 - ・環境問題や省エネルギーに対応した学習の充実
 - ・グローバルな視点を取り入れた学習の充実
 - ・電子機械に関わる知識と技術の活用に関する学習の充実
 - ・組込み技術について知識と技術の一体的な習得を図る学習の充実
 - ・耐震技術やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習の充実
 - (商業)
 - 経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の

一層の充実

- ・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実
- ・マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得
- ・ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実
- ・経済のグローバル化に関する学習の充実
- ・情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実
- ・プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得
- ・情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化

(水産)

- 水産物の世界的な需要の変化や資源管理、持続可能な海洋利用など水産や海洋を取り巻く状況の変化を踏まえ、水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・海面の多様な利用を踏まえ、海洋環境基準及び環境保全等に対応した学習の充実
 - ・水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応した学習の充実
 - ・船舶や企業内における情報セキュリティや、食品の安全に関わる産業としての危機管理に関する学習の充実
 - ・水産物・水産加工品の品質管理・衛生管理に関する学習の充実
 - ・漁業、水産加工業における基礎的・基本的な経営に関する学習の充実
 - ・漁船をはじめとした船員養成の国際基準等に対応した学習の充実

(家庭)

- 少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・調理師法施行令、調理師法施行規則の改正（平成 27 年 4 月 1 日施行）に伴う科目の再編成
 - ・食育の推進等、食に関する学習の充実
 - ・子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実
 - ・高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実
 - ・複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実
 - ・生活文化の伝承・創造に関する学習の充実
 - ・職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実

(看護)

- 少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などを踏まえ、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実
 - ・医療安全に関する学習の充実
 - ・各領域における倫理的課題に関する学習の充実

(情報)

- 知識基盤社会の到来、情報社会の進展、高度な情報技術を持つ I T 人材の需

要増大などを踏まえ、情報関連産業を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

- ・情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習の一層の充実
- ・情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育成する学習の一層の充実
- ・システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得
- ・情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得
- ・問題解決やプログラミングに関する学習の充実
- ・統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実
- ・データベースの応用技術に関する学習の充実
- ・ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実
- ・コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実

(福祉)

- 福祉ニーズの高度化と多様化、倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ、福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
 - ・福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
 - ・福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
 - ・福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
 - ・福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

(3) 学習・指導の改善充実

(主体的・対話的で深い学びの実現)

- 産業教育においては、企業等と連携した商品開発、地域での販売実習、高度熟練技能者による指導など、地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を重視してきた。
- 社会や産業の具体的な課題に取り組むに当たっては、各教科で育まれる見方・考え方を働かせ、より良い製品の製造やサービスの創造等を目指すといった「深い学び」につなげていくことが重要である。「深い学び」を実現する上では、課題の解決を図る学習や臨床の場で実践を行う「課題研究」等の果たす役割が大きい。

また、産業界関係者等との対話、生徒同士の協議等は、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」に、企業等での高度な技術等に触れる体験は、生徒の学ぶ意欲を高める「主体的な学び」につながるものである。これらの学びを実現するためには、地域や産業界等との連携が今後とも重要である。

- 産業教育においては、今後とも地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を充実し、アクティブ・ラーニングの三つの視点から、これらの学習活動を再確認しながら、不断の授業改善に取り組むことが求められる。

(4) 教育環境の充実

(産業界等との連携)

- 地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動は、アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた学びを実現する上でも重要なものであることから、地域や産業界等との連携がより一層求められる。このような連携を促進するためには、各地域の産業教育振興会等と協力して、定期的に学校と産業界等が情報交換を行うとともに、教育委員会、地方公共団体の関係部局、経済団体等が協力し、インターンシップの受入や外部講師の派遣の調整を行うなどといった取組も期待される。
また、2.(1)②で述べた職業に関する各教科で指導すべき共通の内容については、より充実した指導を行うため、例えば、関係の団体に働きかけ、校長会等の協力を得ながら副教材を作成することなど、各学校の取組を支援することが期待される。

(中学校や大学等との接続)

- 研修を通じて中学校の教員が職業の多様性や専門高校について理解を深めることや、産業教育フェア等の取組によって、中学生の主体的な進路選択に資するよう、専門高校での学習に対する理解・関心を高めることも求められる。
- 現在実施されている大学入学者選抜は、共通教科を中心としていることが多いため、アドミッションポリシー等に応じ、専門高校での学びを積極的に評価できる入学者選抜の実施の拡大が望まれる。また、農業大学校や職業能力開発大学校などの省庁系大学校等との連携・協力の促進等も求められる。

(教員研修等の充実)

- 教員の資質・能力を向上させるための研修の機会等の充実、大学が教育委員会等と連携した教員養成課程の充実、実務経験が豊富な社会人の活用が求められる。

(実験・実習の環境整備)

- 計画的な施設・設備の改善・充実・更新、生産や販売実習等の学習活動を円滑に実施するための地方公共団体における関係する財務規則等の整理などの環境整備が求められる。

産業教育ワーキング・グループにおけるとりまとめについて(案)

【別添資料】

・ 産業教育のイメージ (案) ……………	1	・ 商業科の今後の在り方について (案) ……………	9
・ 資質・能力の三つの柱に沿った、職業に関する各教科において育成すべき資質・能力の整理 (案) ……	2	・ 水産科の今後の在り方について (案) ……………	10
・ 職業に関する各教科の目標 (案) ……………	3	・ 家庭科の今後の在り方について (案) ……………	11
・ 職業に関する各教科の見方・考え方について(案) ……	4	・ 看護科の今後の在り方について (案) ……………	12
・ 産業教育における学習のプロセス(イメージ)(案) ……	5	・ 情報科の今後の在り方について (案) ……………	13
・ 産業教育の評価の観点について (案) ……………	6	・ 福祉科の今後の在り方について (案) ……………	14
・ 農業科の今後の在り方について (案) ……………	7	・ 職業に関する各教科別参考資料……………	15
・ 工業科の今後の在り方について (案) ……………	8		

産業教育のイメージ(案)

(高等学校専攻科)

※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程(修業年限1年以上)。

【高等学校】 (産業教育)

- ◎ 職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。
- ① 各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
- ② 各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
- ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

(共通教科)

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要なとされる知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

【義務教育】

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要なとされる基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。



多様な評価手法



高等学校基礎学力
テスト(仮称)



全国学力・学習状況調査

資質・能力の三つの柱に沿った、職業に関する各教科において育成すべき資質・能力の整理（案）

	知識・技術 (何を理解しているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
産業教育 全体	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
工業	<ul style="list-style-type: none"> 工業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
商業	<ul style="list-style-type: none"> 商業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
水産	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度
看護	<ul style="list-style-type: none"> 看護について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもつて地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

職業に関する各教科の目標（案）

産業教育全体	<p>◎職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
農業	<p>◎農業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 農業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
工業	<p>◎工業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 工業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
商業	<p>◎商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 商業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
水産	<p>◎水産の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 水産や海洋の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
家庭	<p>◎生活産業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生活産業について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
看護	<p>◎看護の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
情報	<p>◎情報の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、情報関連産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 情報の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
福祉	<p>◎福祉の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 福祉の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。 福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

職業に関する各教科の見方・考え方について（案）

<p>産業教育 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えること
<p>農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産や農業経営の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農産物の加工や食品流通の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農地や森林の保全、環境修復・再生の視点から農業や関連産業を捉え、地域の環境創造に向けて考えること ・農業生物や地域資源の活用視点から農業や関連産業を捉え、地域創造と生活の質的向上に向けて考えること
<p>工業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な製品を提供する視点からものづくりを捉え、新たな次代を切り拓く付加価値の高い創造的な製品の開発を目指す合理的なものづくりの方策の活用に向けて考えること ・工業の各分野で情報化が図られている視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指す情報技術の有効な活用に向けて考えること ・持続可能な社会の構築の視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、資源・エネルギーの有効活用、環境保全に向けて考えること
<p>商業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの視点から企業活動を捉え、顧客満足の実現と顧客の創造に向けて考えること ・マネジメントの視点から企業活動を捉え、経済社会の動向や法令等を踏まえた適切な意思決定に向けて考えること ・会計の視点から企業活動を捉え、適切な会計情報の提供及び効果的な会計情報の活用に向けて考えること ・ビジネスに関する情報の視点から企業活動を捉え、情報の適切な処理及び情報や情報通信技術の効果的な活用に向けて考えること
<p>水産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境や資源等に配慮した安全で経済的な漁業や船舶運航の実現に向けて考えること ・船舶や海洋関連機器などの海洋工学の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境に配慮した安全で経済的なマリネンジニアリングの実現に向けて考えること ・海上における情報通信の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、セキュリティを考慮した円滑な通信業務の実現に向けて考えること ・栽培漁業などの生物生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、生態系や環境に配慮した安全で経済的な養殖業の実現に向けて考えること ・水産食品の製造や流通の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、品質管理・衛生管理を考慮した安全で経済的な水産食品の持続的な供給に向けて考えること
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かに支える視点から、衣食住、ヒューマンサービス等に係る生活産業等を捉え、協力・協働・健康・快適・安全な生活の創造、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築に向けて考えること
<p>看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の視点から健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考えること
<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの設計・管理の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なシステムを構築することを旨として、情報セキュリティをもちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること ・情報コンテンツの制作・発信の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なコンテンツを制作することを旨として、情報セキュリティをもちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること
<p>福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の視点から生活に関わる問題を捉え、人間としての尊厳の保持と自立支援の在り方について、当事者の考えや制約を踏まえて考えること

産業教育における学習のプロセス(イメージ) (案)

他者への働きかけ、他者との協働、外部との相互作用

課題発見・
解決のプロセス

課題の発見
解決すべき職業に関する課題を把握する

課題解決の
方向性の検討
関係する情報を収集する。予想し仮説を立てる

計画の立案
計画を立案する

計画の実施
計画に基づき
解決策を実践する

振り返り
結果をもとに計画
を検証する

次の
課題発見へ

知識・技術

・課題の発見、計画の立案・実施の基となる専門的な知識・技術の習得

・専門的な知識・技術の
定着

判断思考・
表現

・職業の視点から解決
すべき課題の発見

・職業人としての倫理観に基づく合理的かつ
創造的な解決策の考察・決定
・関係者への説明や意見交換

・計画の実施に当
たつての専門的な
知識・技術の活用

・より合理的かつ創造的な
改善策の考察

情意・態度

・より良い社会の構築
に向け課題を発見し
ようとする態度

・主体的かつ協働的に課題に取り組もうとする態度

・学習したことを次の学び
や社会・産業の発展に
生かそうとする態度

* 上記のプロセスや評価場面は例示であり、これらに限定されたり、全ての機会において評価を行ったりすることが必ずしも求められるものではない。

産業教育の評価の観点について(案)

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に実践する態度
各観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解している。 関連する技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

※「各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解している」とは、事実に基づいた概念的な知識の習得も意味している。
 ※ 産業教育において育成すべき資質・能力のうち、学びに向かう力、人間性等にかかわる「職業人として必要な豊かな人間性」については、学習状況を分析的に捉える評価にならず、一人一人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する個人内評価として行うことが適当。

【参考】各教科等の評価の観点のイメージ(案)

(平成28年2月24日 中教審／総則・評価特別部会【資料3-1】より)

観点(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討			
各観点の趣旨のイメージ(例) ※具体的な記述については、各教科の特質を踏まえて検討	(例) ○○を理解している／○○の知識を身に付けている ○○することができる／○○の技能を身に付けている	(例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	(例) 主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

【参考】学校教育法(抜粋)

- 第30条 2項 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をばぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。(※第62条において、高等学校に準用)
- 第51条 高等学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
 - 二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。

農業科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・安全・安心な食料の持続的・安定的な生産と供給の必要性
- ・TPP等による農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化等への対応
- ・農業の技術革新と高度化への対応
- ・消費者ニーズと食をめぐる課題の多様化への対応
- ・森林等国土保全や地域資源の有効活用の可能性
- ・農業・農村の有する多面的機能の維持への対応

育成する人材像

- ・農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
農業の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・農産物の生産や農業経営の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること
- ・農産物の加工や食品流通の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること
- ・農地や森林の保全、環境修復・再生の視点から農業や関連産業を捉え、地域の環境創造に向けて考えること
- ・農業生物や地域資源の活用の視点から農業や関連産業を捉え、地域創造と生活の質的向上に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・現在の「農業経営、食品産業分野」と「バイオテクノロジー分野」を再構造化し、バイオテクノロジーを含む「農業生産や農業経営の分野」と「食品製造や食品流通の分野」に整理
- ・農業の各分野において、持続可能で多様な環境に対応した学習の充実
- ・農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るための学習の充実「農業生産や農業経営の分野」
- ・安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実「農業生産や農業経営の分野、食品製造や食品流通の分野」
- ・農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実「農業生産や農業経営の分野」
- ・農業の持つ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実「国土保全や環境創造の分野、資源活用や地域創造の分野」

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・農業における知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた創造的・実践的な学び
- ・農業の意義を理解し、地域農業の具体的な事例を取り上げ、その課題を発見するための、調査、研究、実験などの学び
- ・地域課題を主体的・協働的に解決するための、プロジェクト学習による産業界等との共同研究や商品開発などの学び（学校農業クラブ活動等）
- ・産社会で実践する力を磨くための、理論と実践をつなぐ学校農場等での農業実習や産業界場における就業体験などの学び

工業科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・ものづくり産業を担う創造性をもった人材を育成することの必要性
- ・若年技術者・技能者の育成を図るため、ものづくり産業における技術や技能を伝承することの必要性
- ・安全・安心な社会の構築に向けて、職業人としての倫理観を高めることの必要性
- ・地球温暖化など環境保全や、資源の枯渇、電力や化学をはじめとするエネルギーの有効な活用に関する課題への対応
- ・標準化の確立による競争など、産業のグローバル競争が激化するこへの対応
- ・IoT(ものづくりの効率化と生産性向上を図るもの)や、製造現場等で人と協調する自動化システム(人工知能等)の技術革新の開発が加速することなど、情報技術の発展への対応

育成する人材像

- ・ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
工業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
工業を支える職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・安全で安心な製品を提供する視点からものづくりを捉え、新たな次代を切り拓く付加価値の高い創造的な製品の開発を目指して、製造現場における合理的なものづくりの方策の活用に向けて考えること
- ・工業の各分野で情報化が図られている視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、高度に発展する情報技術の有効な活用に向けて考えること
- ・持続可能な社会の構築の視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、資源・エネルギーの有効活用、環境保全に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・工業の各分野で横断的に履修する科目について、知識や技術及び技能の活用に関する学習の充実
- ・技術の高度化や情報技術の発展等への対応に関する学習の充実〔工業の各分野〕
- ・環境問題や省エネルギーに対応した学習の充実〔工業の各分野〕
- ・グローバルな視点を取り入れた学習の充実〔工業の各分野〕
- ・電子機械に関わる知識と技術の活用に関する学習の充実〔電子機械の分野〕
- ・組込み技術について知識と技術の一体的な習得を図る学習の充実〔情報技術、電子の各分野〕
- ・耐震技術やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習の充実〔建築、土木の各分野〕

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・知識や技術などを身に付けるための、科学的な根拠を踏まえたと実験や実習など、ものづくりに関する実践的な学び
- ・工業の意義や工業技術を理解し、工業に関する課題を発見するための、具体的な事例を取り上げ、科学的な根拠を踏まえたと考察や討論などの学び
- ・身に付けた知識や技術及び技能を活用するため、研究開発や地域の課題の解決につながる産業界等と協働した製品の考案などの学び
- ・法令遵守や技術者倫理を高めるための、産業現場での事故や事件に関する事例を活用した協議や振り返りによる学び

商業科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・ グローバル化の急速な進展への対応
- ・ ICTの進歩とインターネットを活用したビジネスの普及への対応
- ・ 観光立国を目指した観光産業の振興の必要性
- ・ 地域ビジネスの活力の低下への対応
- ・ コミュニケーション能力の低下への対応

育成する人材像

- ・ ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
商業の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・ マーケティングの視点から企業活動を捉え、顧客満足の実現と顧客の創造に向けて考えること
- ・ マネジメントの視点から企業活動を捉え、経済社会の動向や法令等を踏まえた適切な意思決定に向けて考えること
- ・ 会計の視点から企業活動を捉え、適切な会計情報の提供及び効果的な会計情報の活用に向けて考えること
- ・ ビジネスに関する情報の視点から企業活動を捉え、情報の適切な処理及び情報や情報通信技術の効果的な活用に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・ 観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実
〔マーケティング分野〕
- ・ ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実〔総合的科目〕
- ・ マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得〔マーケティング分野〕
- ・ ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実〔マネジメント分野〕
- ・ 経済のグローバル化に関する学習の充実〔マネジメンツ分野〕
- ・ 情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実〔ビジネス情報分野〕
- ・ プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得〔ビジネス情報分野〕
- ・ 情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化〔ビジネス情報分野〕

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実験的・実証的な学び
- ・ ビジネスの意義や実際のビジネスを理解し、ビジネスの課題を発見するための、具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・ 企画力や創造力を養うための、産業界等との協働による商品の開発やビジネスの考案などの学び
- ・ 実社会で実践する力を磨くための、地域における模擬株式会社経営などの学び

水産科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・水産業との共存を図った持続可能な海洋利用への対応
(海洋環境保全、海洋開発、里海づくり等)
- ・水産物需要の世界的な変化に対応した競争力のある水産業への対応 (TPP、輸出促進、技術革新等)
- ・資源管理を考慮した品質重視型漁業への対応 (ブランド化、HACCP、トレーサビリティ等)
- ・活力ある生産構造の構築の必要性 (六次産業化、加工品の開発、魚食普及等)
- ・産業のグローバル化への対応
(海上交通等の国際標準化、加工施設・養殖施設の海外進出等)

育成する人材像

- ・水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
水産や海洋の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・漁業生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境や資源等に配慮した安全で経済的な漁業や船舶運航の実現に向けて考えること
- ・船舶や海洋関連機器などの海洋工学の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境に配慮した安全で経済的なマリネンエンジニアリングの実現に向けて考えること
- ・海上における情報通信の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、セキュリティを考慮した円滑な通信業務の実現に向けて考えること
- ・栽培漁業などの生物生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、生態系や環境に配慮した安全で経済的な養殖業の実現に向けて考えること
- ・水産食品の製造や流通の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、品質管理・衛生管理を考慮した安全で経済的な水産食品の持続的な供給に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・水産の各分野において、海面の多様な利用を踏まえ、海洋環境基準及び環境保全等に対応した学習の充実
- ・水産の各分野において、水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応した学習の充実
- ・水産の各分野において、船舶や企業内における情報セキュリティや、食品の安全に関わる産業としての危機管理に関する学習の充実
- ・水産物・水産加工品の品質管理・衛生管理に関する学習の充実〔海洋漁業、資源増殖、水産食品の各分野〕
- ・漁業、水産加工業における基礎的・基本的な経営に関する学習の充実〔海洋漁業、資源増殖、水産食品の各分野〕
- ・漁船をはじめとした船員養成の国際基準等に対応した学習の充実〔海洋漁業、海洋工学、情報通信の各分野〕

学びの例 ～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・水産や海洋における知識や技術などを身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実験や実習など実践的な学び
- ・水産業や海洋関連産業の意義を理解し、実際の地域産業における具体的な事例を取り上げ、その課題を発見するための考察や討論などの学び
- ・地域の課題を解決する企画力や創造力を養うための、産業界等との協働による商品の開発や知的財産権などの学び
- ・産業社会で実践する力を磨くための、実習船や産業現場における長期の実習などの学び

家庭科の今後の在り方について(案)

現状と課題

- ・ 食育の推進や専門性の高い調理師養成への対応
- ・ 少子高齢化への対応
- ・ 価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等、現代的な課題への対応
- ・ グローバル化を踏まえた生活文化の伝承・創造の必要性
- ・ 地域産業の活性化を図るためのマネジメント能力を育成する必要性
- ・ 生徒の生活体験の減少等により基礎的・基本的な技術の定着を図る必要性

育成する人材像

- ・ 生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
生活産業について（社会的意義や役割を含め）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
 - 思考力・判断力・表現力等
生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
 - 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度
- ## 見方・考え方
- ・ 生活を豊かに支える視点から、衣食住、ヒューマンサービス等に係る生活産業等を捉え、協力・協働、健康・快適・安全な生活の創造、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・ 調理師法施行令、調理師法施行規則の改正（平成27年4月1日施行）に伴う科目の再編成〔食分野〕
- ・ 食育の推進等、食に関する学習の充実〔食分野〕
- ・ 子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実〔ヒューマンサービス分野〕
- ・ 高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実〔ヒューマンサービス分野〕
- ・ 複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実〔消費生活分野〕
- ・ 生活文化の伝承・創造に関する学習の充実〔衣食住分野〕
- ・ 職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実〔家庭の各分野〕

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実践的・体験的な学び
- ・ 生活産業の意義やその社会的役割、職業や関連する資格について理解し、課題を発見するために具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・ マネジメント能力や創造力を育成するために、産業界等との協働による商品開発や企画・提案などの学び
- ・ 職業人として家庭と地域の生活を豊かに支える視点から、地域との連携を一層深める学び（学校家庭クラブ活動等）

現状と課題

- ・ 少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などへの対応
- ・ 多様な患者の状態に応じた医療事故の防止と医療安全の推進への対応
- ・ 医療に関する多様な倫理的課題への対応

育成する人材像

- ・ 看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人

育成する資質・能力

○知識・技術

看護について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得

○思考力・判断力・表現力等

看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力

○学びに向かう力、人間性等

職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・ 看護の視点から健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考えること

科目構成の方向性

- ・ 多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実
- ・ 医療安全に関する学習の充実
- ・ 各領域における倫理的課題に関する学習の充実

学びの例

～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 看護に関する知識・技術の科学的根拠を理解するための、実験・実習や調べ学習による体験的・実証的な学び
- ・ 看護に関する知識・技術を確実に身に付けるための、ICTを活用した教材や振り返り、異学年交流、プロジェクト学習などを講義・実習に取り入れた主体的な学び
- ・ 看護実践力を養うための、多様な課題を設定した演習や臨地実習などによる応用的な学び
- ・ 生命倫理や権利擁護、多様な価値観などについて理解を深めるための、事例を活用した協議や振り返りによる深い学び

情報科の今後の在り方について（案）

現状と課題

- ・知識基盤社会の到来とグローバル化による情報社会の進展への対応
- ・高度な技術を持つIT人材の需要増大への対応
- ・特にインターネット、Webコンテンツの作成、セキュリティ、情報処理サービス、ソフトウェア関連の人材養成の必要性
- ・将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会への対応

育成する人材像

- ・情報関連産業を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
情報の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・システムの設計・管理の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なシステムを構築することを指して、情報セキュリティをもちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること
- ・情報コンテンツの制作・発信の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なコンテンツを制作することを指して、情報セキュリティを保ちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること

科目構成の方向性

- ・情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習の一層の充実 [各分野に共通した科目]
- ・情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育成する学習の一層の充実 [情報コンテンツの制作・発信分野の科目]
- ・システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得 [各分野に共通した科目]
- ・情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得 [情報コンテンツの制作・発信分野の科目]
- ・問題解決やプログラミングに関する学習の充実 [各分野に共通した科目]
- ・統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実 [各分野に共通した科目]
- ・データベースの応用技術に関する学習の充実 [システムの設計・管理分野の科目]
- ・ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実 [システムの設計・管理分野の科目]
- ・コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実 [情報コンテンツの制作・発信分野の科目]

学びの例～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・情報の科学的理解を深めるための、実践的、体験的な学び
- ・情報産業の意義や実際の職務内容を理解し、情報産業の課題を発見するための、具体的な事例を取り上げた考察や討論などの学び
- ・高度な技術力を養うための、産業界等との協働によるソフトウェア開発等を通じた学び
- ・実社会で実践する力を磨くための、地域との協働による情報コンテンツ開発等を通じた学び

現状と課題

- ・ 医療的ケアなど福祉ニーズの高度化と多様化への対応
- ・ 福祉実践における倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働を進める能力等への対応
- ・ ICT・介護ロボットなど福祉機器を活用した福祉実践への対応

育成する人材像

- ・ 福祉を通して、人間の尊厳に基づき地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人

育成する資質・能力

- 知識・技術
福祉の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解、関連する技術の習得
- 思考力・判断力・表現力等
福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力
- 学びに向かう力、人間性等
職業人として必要な豊かな人間性、より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

見方・考え方

- ・ 福祉の視点から生活に関わる問題を捉え、人間としての尊厳の保持と自立支援の在り方について、当事者の考えや制約を踏まえて考えること

科目構成の方向性

- ・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
- ・ 福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
- ・ 福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
- ・ 福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
- ・ 福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

学びの例

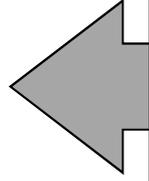
～深い学び、対話的な学び、主体的な学び～

- ・ 福祉に関する知識や技術を身に付けるための、科学的な根拠を踏まえた実践的・体験的な学び
- ・ 自立生活支援を目指した介護の意義と役割を理解し、具体的な事例検討による考察や課題解決に向けた学び
- ・ 社会調査や統計分析などの地域社会における多様な福祉ニーズを科学的に捉えるための、実証的・研究的な学び
- ・ 福祉の実践力を養うための実習施設などとの連携による協働的な学び

職業に関する各教科別参考資料

教科の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義と役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。



育成する人材像：地域農業をはじめ地域産業の健全で持続的な発展を担う職業人（将来の地域農業を担う人材、人間性豊かな職業人）

育成する力

- 農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術
- 農業の社会的な意義や役割を理解する力
- 農業の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決する能力
- 持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力
- 農業に関する実践的な態度

4つの分野と科目構成

農業経営、食品産業分野

農業経営や食品産業の基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

農業経営	農業機械	農業経済	食品流通	微生物利用
作物	草花	畜産	食品化学	
野菜	果樹	食品製造		

バイオテクノロジー分野

農業におけるバイオテクノロジーの基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

植物バイオテクノロジー	動物バイオテクノロジー
-------------	-------------

環境創造・素材生産分野

林産物の生産や経営及び国土の保全と創造についての基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

林産物利用	農業土木設計	環境緑化材料
森林経営	農業土木施工	造園設計
森林科学	水循環	造園技術
測量		

ヒューマンサービス分野

農業生物や地域資源を活用した対人サービスの基礎的・基本的な知識と技術並びに実践的な態度

生物活用	グリーンライフ
------	---------

共通的な科目

農業と環境 農業情報処理 総合実習 課題研究

工業科における系統表・構成表(現行)

教科の目標

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

【育成する人材像】 工業技術・技能の基礎・基本を習得しており、自ら手を動かすことに慣れていることから、実践を通して思考・判断・表現できる点で、ものづくりに対して優れている人材

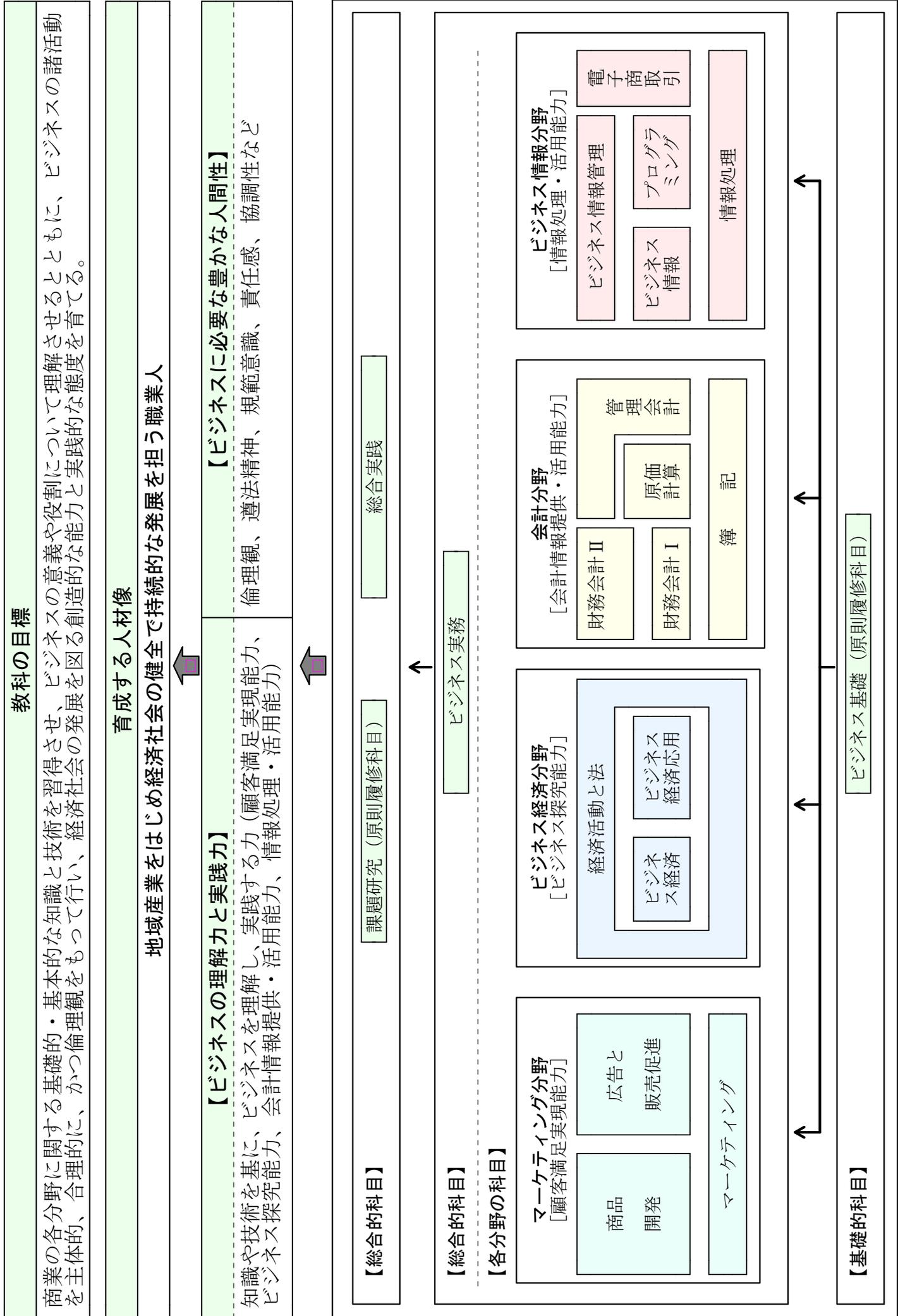
【育成する力】

- 持続可能な発展を図るために必要となる知識や技術・技能
- 工業技術や社会の発展に必要となる知識や技術・技能をものづくりにおこなう中で、産業や社会とのつながりも意識して、答えが一つに定まらない課題に対して、自ら解を見出していることと、自ら解を見出していることとを、判断力・表現力等の能力
- 地域で課題となっており、多様な人々と協働しつつ、「どのようなものをつくるか」について学ぶ態度
- 工業製品を高く評価する観点から、改善する点を見いだす提案することができていることと、改善する点を見いだすことのできる態度
- 入学した時点で期待できる特定の成長過程があったとしても、学校や授業の状況などから、生徒の成長に応じてさらに変化をうながすことができることから、自らが変革を牽引できるステップアップの育成

工業の各分野と科目構成

原則履修科目:「工業技術基礎」		原則履修科目:「課題研究」	
各学科における共通的な内容で、かつ基礎的・基本的な内容で構成された科目: 「実習」「製図」「工業数理基礎」「情報技術基礎」	各学科の特色や生徒の進路希望により選択して履修する科目: 「材料技術基礎」「生産システム技術」「工業技術英語」「工業管理技術」「環境工学基礎」	・機構技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、製品の設計・加工・製造等に関する機構技術の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・機構に関する学級の科目:「機構工作」「機構設計」「原動機」
		・電子機械技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、諸要素を組み合わせた制御に関する電子機械技術の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・電子機械に関する学級の科目:「電子機械」「電子機械応用」
		・自動車技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、自動車に関する諸情勢・法規や規格・環境や資源エネルギー・安全・車体構造等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度を育てる	・自動車に関する学級の科目:「自動車工学」「自動車整備」
		・電気技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、電気現象・電気的計量の相互関係、各種電気機器の原理・構造・特性・取扱い、電力の供給・運用等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・電気に関する学級の科目:「電気基礎」「電気機器」「電力技術」「電子技術」
		・電子技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、電子回路用素子の特性・機能・構成、取扱い、計測制御システム、情報通信システム等の諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・電子に関する学級の科目:「電子回路」「電子計測制御」「通信技術」「電子情報技術」
		・情報技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、コンピュータにおける技術革新やその活用等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・情報技術に関する学級の科目:「プログラミング技術」「ハードウェア技術」「ソフトウェア技術」「コンピュータシステム技術」
		・建築技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、建築物を合理的に、かつ倫理観をもって設計し、施工することに関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・建築に関する学級の科目:「建築法規」「建築構造設計」「建築施工」「建築法規」
		・設備工業技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、各種建築物の諸条件に適した空調調和・給排水衛生設備などの設計、施工、保守管理に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・設備工業に関する学級の科目:「設備計画」「空調調和設備」「衛生・防災設備」
		・土木技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、社会基盤の整備を合理的に、かつ倫理観をもって設計し、施工することに関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・土木に関する学級の科目:「測量」「土木基礎力学」「土木構造設計」「土木施工」「社会基盤工学」
		・化学工業技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、物質の性質や変化、プラントの装置、計測・制御及び環境保全等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・化学工業に関する学級の科目:「工業化学」「化学工学」「地球環境化学」
・材料技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、各種工業材料の製造、組織・性質・保全、用途等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・材料技術に関する学級の科目:「材料製造技術」「工業材料」「材料加工」		
・セラミック技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、セラミックの原料、組織、物性、製造、用途等に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・セラミックに関する学級の科目:「セラミック化学」「セラミック材料」「セラミック工業」		
・繊維技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、繊維製品の製造、染色技術、染織デザインに関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・繊維に関する学級の科目:「繊維製品」「染織技術」「染織デザイン」		
・インテリア技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、インテリアの計画・設計・施工・管理及び空間を構成するインテリアエレメントの企画・設計・生産技術に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・インテリアに関する学級の科目:「インテリア計画」「インテリア装備」「インテリアエレメント生産」		
・デザイン技術の変化にも対応して身に付けた知識・技能を活用しながら、例えば、プロダクトデザインの意義、要素、用途に関する諸課題を主体的に発見し、協働して実践的に解決する能力と態度	・デザインに関する学級の科目:「デザイン技術」「デザイン材料」「デザイン実」		

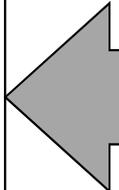
商業科における系統表・構成表（現行）



水産科における系統表・構成表（現行）

教科の目標

水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理的に、かつ安定的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。



育成する人材像：実践的な学習を通して知識・技術を習得し、水産業や海洋関連産業の健全な発展を担う職業人

- 水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術
- 水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解する力
- 水産業や海洋関連産業に関する実践的な態度

- 水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理的に、かつ安定的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力
- 持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力

育成する力

5つの分野と科目構成

原則履修科目	水産海洋基礎	課題研究
<p>海洋漁業分野 漁業生産や船舶運航等に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業 航海・計器 船舶運用 小型船舶 水産流通 	<p>海洋工学分野 船用機関や海洋工学等に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 船用機関 機械設計 工作 電気理論 海洋環境 小型船舶 	<p>情報通信分野 無線通信士や通信機器に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気理論 移動体通信工学 海洋通信技術 海洋情報技術
	<p>海洋工学分野 船用機関や海洋工学等に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 船用機関 機械設計 工作 電気理論 海洋環境 小型船舶 	<p>資源増殖分野 水産増養殖や海洋生物に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源増殖 海洋生物 海洋環境 小型船舶 水産流通
		<p>水産食品分野 水産食品の製造、管理及び流通に関する知識や技術を習得させ、実践的な態度を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品製造 食品管理 水産流通
共通的な科目	総合実習	ダイビング
	海洋情報技術	水産海洋科学
		マリンスポーツ

教科の目標

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに、生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

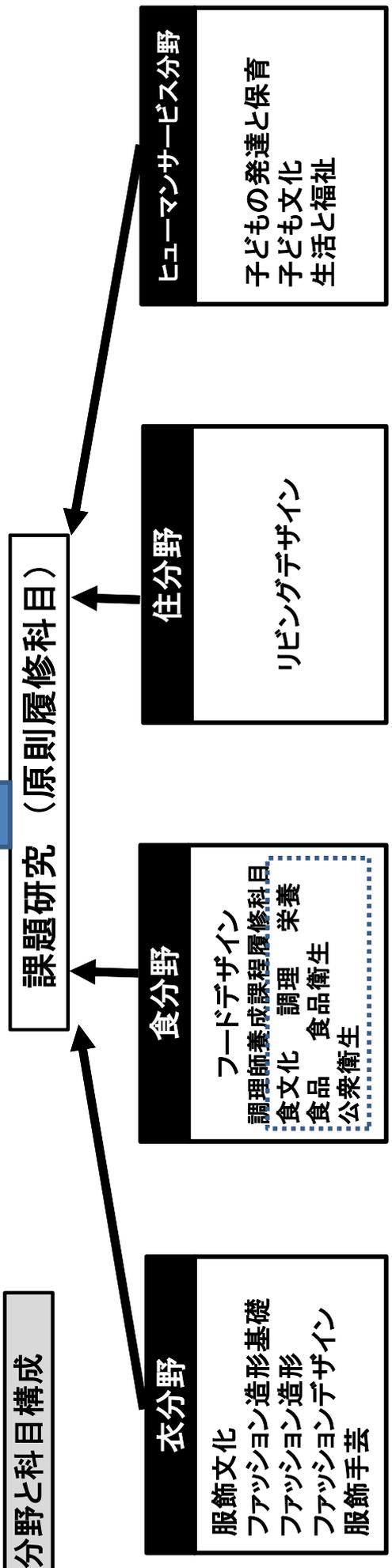
育成する人材像

少子高齢社会の進展や食育の推進、ライフスタイルの多様化に対応した、衣食住、保育等のヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリスト

育成する力

- 家庭の生活に関わる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術
- 生活産業の社会的な意義や役割の理解
- 生活産業を取り巻く諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度

分野と科目構成



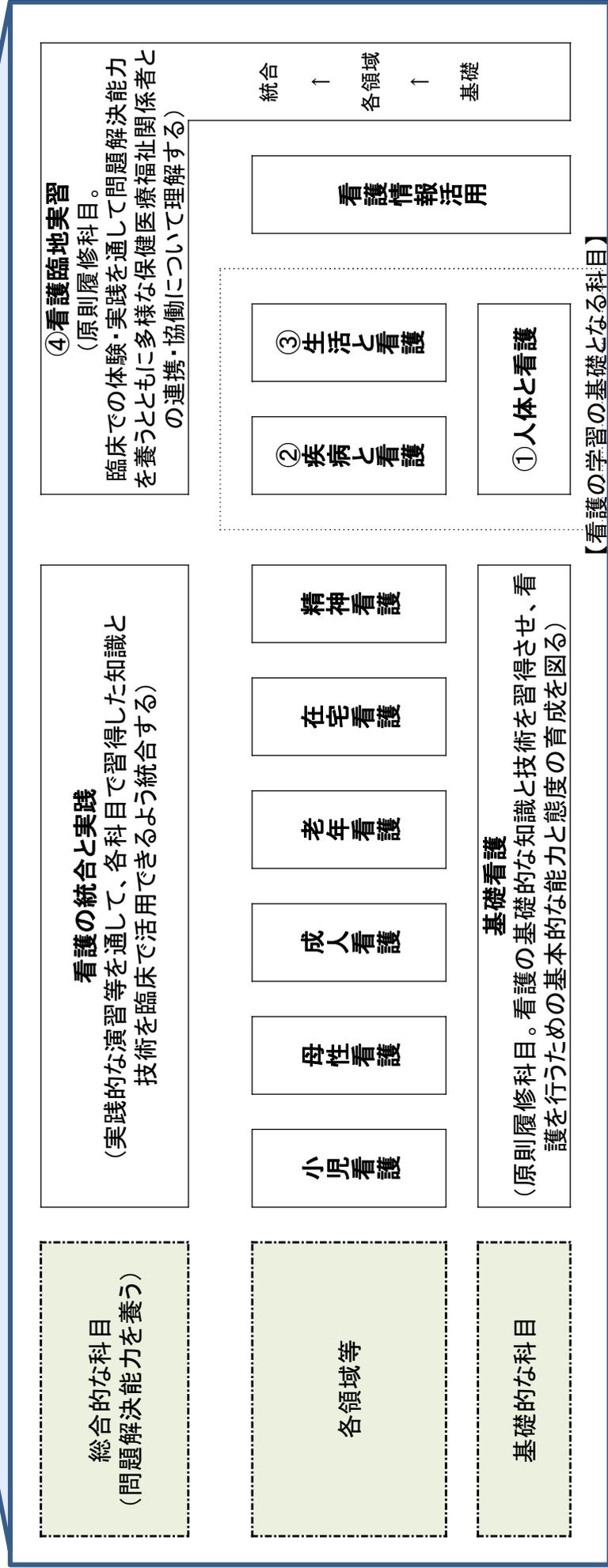
生活産業基礎(原則履修科目)

生活産業情報

消費生活

看護科における系統表・構成表（現行）

教科の目標	看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。
育成する人材像	地域社会の医療を支え、国民の健康の保持増進に寄与する人材



【①～④の学習内容】

- ①人体と看護－人体の構造と機能、栄養、感染と免疫
- ②疾病と看護－疾病の成り立ちと回復の過程、薬物と薬理
- ③生活と看護－精神保健、生活と健康、社会保障制度と福祉
- ④看護臨地実習－基礎看護、小児看護、母性看護、成人看護、老年看護、在宅看護、精神看護、在宅看護、看護の統合と実践

情報科(専門)における系統表・構成表(現行)

教科の目標

情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像

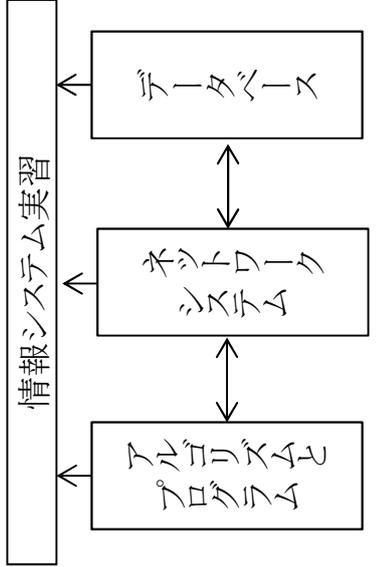
情報に関する知識と技術を習得し、変化の激しい情報社会に対応するために学び続けるとともに、地域の企業等の問題を発見し解決することができる人材

【総合的科目】

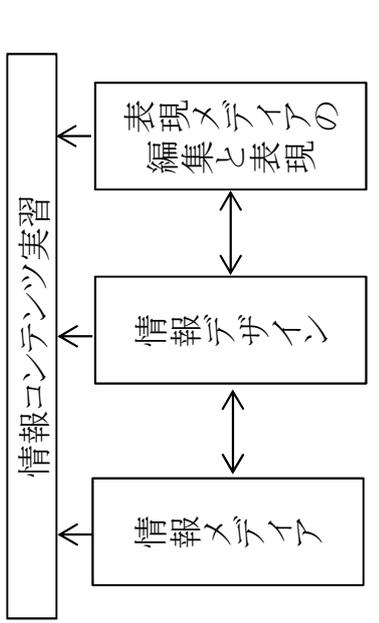
課題研究(原則履修科目)

【各分野の科目】

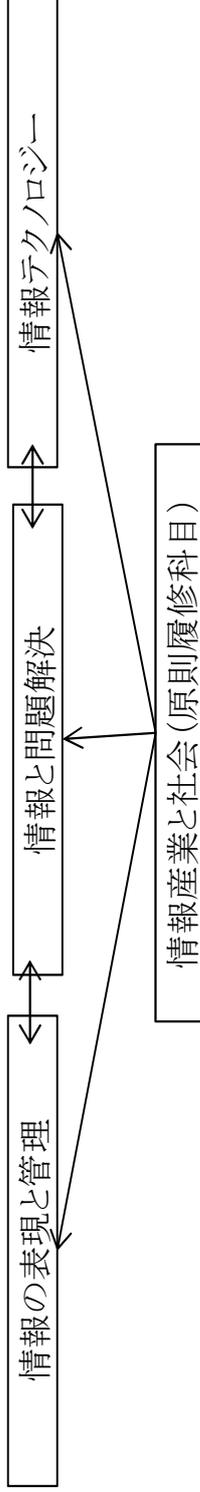
システムの設計・管理分野の科目



情報コンテンツの制作・発信分野の科目



【基礎的科目】



福祉科における系統表・構成表（現行）

教科の目標

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

育成する人材像

地域福祉をはじめ福祉社会の健全で持続的な発展を担う職業人

科目の構成（9科目）

人間と社会	介護	ところとからだの理解
社会福祉基礎 福祉情報活用	介護福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術 介護過程 介護総合演習 介護実習	ところとからだの理解 ※医療的ケアを含む

